

特別支援教育コーディネーターの 現状と課題から

自分が特別支援教育を推進しないといけないんだ！！
でも、そんな時間と余裕がない。
そんな自信もない……。

という声がしばしば聞かれます……。
みなさんは、どうでしょうか？



福島県では、平成16年度に県内全ての公立小・中学校に、平成17年度には全ての県立高等学校に対して、特別支援教育コーディネーターの指名と校内委員会設置の通知が出され、10年以上が経過しました。

当センターでは、平成28年度小・中学校、高等学校特別支援教育コーディネーター研修会において、特別支援教育コーディネーターの取り組みに関するアンケートをとり、特別支援教育をさらに推進していくための生の声を集めました。

質問項目は以下のとおりです。

Q1：特別支援教育コーディネーターとして、今、取り組んでいることは何ですか？

Q2：取り組むことが難しいことは何ですか？

Q3：取り組むことが難しい理由は何ですか？

Q4：さらに校内の特別支援教育が進むためには、どんなことが必要ですか？

の項目で、小・中学校、高等学校の特別支援教育コーディネーター研修会に参加された251名に回答していただきました。内容の詳細は、ウェブページ上にある「☆小・中学校、高等学校における特別支援教育コーディネーターの取り組みに関するアンケート」をご覧ください。

ここでは、その内容から一部抜粋して、現状を見つめ直したいと思います。

(a) 取り組んでいることと難しいこと

Q1：取り組んでいることは何ですか？

「児童生徒の実態・状況把握」79.7%

「職員との相談」67.3%

「校内委員会の開催」67.3%

Q2：難しいことは何ですか？

「理解啓発・情報発信」36.3%

「関係機関との連携調整」35.5%

「ケース会議の開催」34.3%

児童生徒のために、校内で積極的に取り組んでいることが分かります。しかし、Q2からは、もっと理解を推進したい、関係機関と協力したい等の悩みも見えてきます。

(b) 難しさの理由・特別支援教育コーディネーターの本音

Q 3 : 取り組みが難しい理由は何ですか？

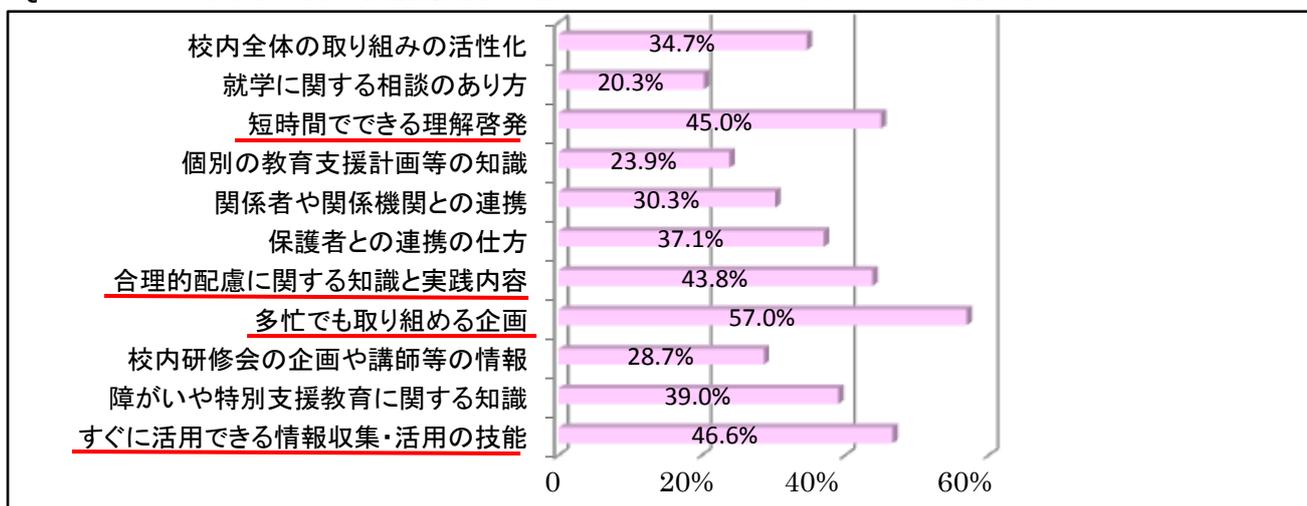
- 「校内行事、校務分掌等の多忙化」 62.5%
- 「職員全体の多忙な様子」 61.8%
- 「特別支援に関する知識が少ない」 40.6%



この環境下で、「一人で特別支援教育を推進していくななんて無理！！」という声や、「どう進めていいか…」という声も聞こえてきます。

(c) 推進のための特別支援教育コーディネーターの本音

Q 4 : さらに校内の特別支援教育が進むためには、どんなことが必要ですか？



このハンドブックが目指すポイントは3つ

- ①「**短時間**」 ②「**すぐ使える情報**」 ③「**具体的な知識と実践**」

この3つを押さえて作成しています！！

さらに校内におけるインクルーシブ教育システム推進に向けた取り組みのために、何が必要か、その道筋を提案するとともに、必要な知識や情報、具体例、研修内容例を掲載していきます。

また、特別支援教育コーディネーターだけが頑張るのではなく、校内にいる誰でも活用できるように、自分たちで人や情報を組み合わせて、特別支援教育をコーディネートできるような内容になっています。自分たちで、使えると感じた情報を実践、研修に役立てていただければ幸いです。